

季節感が無くなったといわれる街角の花屋の店先にも、それでもサクラ草の鉢植えが可愛いつぼみをたくさんつけて、春の訪れを告げています。

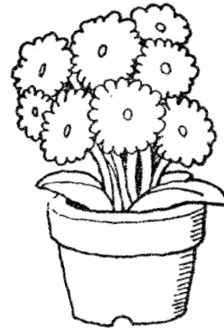
○ ○ ○

今日 彼岸

菩提の種を

まく日かな

という一句があります。



「日頃は忙しさに追われ、雑事ばかりたてられていたが、おや、今日はお彼岸。お墓に行つて、感謝のおまいりでもして、

精進の一日を送りましょう。」とでもいう一句でしょうか。

人生、楽しいことだけ選んで、経験することはできません。オギャーとうまれた私達は、様々な人と出会い、どれだけ愛した人とでも必ず別れが訪れます。

しかも苦難は、予告なく訪れます。私達は自分の都合のよいこと、そうでないことをひつくるめて人生を噛みしめ、丸ごと味わうことが大切です。その「とらわれない心」が自然と、仏心を育むことに繋がります。苦しいこと、悲しいこと、嬉しいこと、楽しいこと全部ひつくるめて、「生きる」ということなのです。

お彼岸とは、迷える私共を目覚めさせて修養、信仰への手引きの役をする、週間ともいえましよう。

手を合わせ、今、仏縁に支えられ、生かされている尊い自己のちに感謝し、ここまで命を繋いでいただいたご先祖さまへの、報恩感謝の思いで、このお彼岸を過ごしたいものです。

はり伝う

ねずみの道もみちなれど
まことの道ぞ 人のゆく道

歩み



平成二十九年も幕を明け、檀信徒各位におかれましては、元気に新しい年をお迎えになられたことと拝察申し上げます。

昨年は、墓石、古墳石供養塚が山道脇に二基できましたし、私が入山以来、気にかかっていました、開山堂、位牌堂の屋根の水漏れ対策も、護持会の力で完了し、一安心することができました。

ザル菊の鑑賞会も軌道にのってきたようで、会員数も徐々にふえて、多勢の方がお寺におみえになり、親しくなる御縁づくりの役を多いに果たしてくれて、ありがたいことと思っています。

又、初めての宝物展を秋には開催し、多くの方がお寺を訪れて下さいました。

今、日本造園協会の研修の場に、当寺の境内地、裏庭が選ばれたことで、遊歩道を盛り込んだ景観づくりが少しづつ形になってきており、お寺がゆつたりとではあります、大きな変革の渦の中心にいますことを実感しています。

私は永平寺での修業から帰ってきて後、「荒海で操業している船が、いつでも逃げ込んで来られる港でありたい」と、穏やかな内海、港に寺を横して、檀信徒の方々がほつとする空間づくりを自分の責務と思い、毎日を過ごしてきました。縁あって、玉宝寺住職を退任後、総世寺をお預りして、五年目に入ろうとしています。玉宝寺、総世寺とも、その思いは変わることなく、私の心を占めています。「前世でよほど、多くの人々に助けられたのネ。現世で、毎日毎日、その御恩返しの日々みたいだもの」と、妻は笑いながら言いますが、一日一日

を大切に、大事に仏さまのみ教えに叶う日々を送ろうと、改めて願っています。

美しいことば

美しいことば、正しいことば

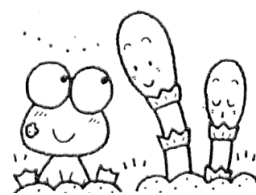
とばづかいということは、なかなかむずかしいことです。

観念的には、正しく美しいことばを使うということを考えていても、さて自分のこととなると、なかなか美しいことばが、常に使われるということにならないことが多いのではないのでしょうか。

それでは、正しいことばづかいは、どんなことばでしょう。

私は相手の人に不愉快な気持ちを与えることなく、常にあたたかい気持ちで接することのできることばづかいが、正しいことばづかいいえるのではないかと思うのです。

そんなことを思っていた折、今、ブーム



のお稽古事という特集がテレビで放映されていて、その中で歌舞伎教室に通う子供達がふえていることを知りました。

歩き方、目の配り、歌舞伎独特のミエのきり方などのお稽古は勿論ですが、つき添いの保護者共々、三ツ指をつけて正座して、「よろしくお願いします」の初めの挨拶に始まり、美しい所作、美しい言葉づかい等にこだわり、日本古来の奥床しさを追求していく、今話題の習い事なのだそうです。

道を歩きながら物を食べた
り、電車の中でお化粧したり、
女の子が男言葉を使ったり、



「テメエ、ぶつ殺すゾ」「しめる」「チクル」などという、ぶつそらな、荒い言葉が日常の中で使われることの多い昨今だから、昔のよきしきたり、昔の風情あるたちふるまい、昔のよき時代を懐しんだり、あこが

れたりする人々も出て来ているのでしょう。
人間が人間らしく生きるといふことの、
むずかしさを考える時、今一度私達の使っ
ている言葉を見直してみることが必要では
ないでしょうか。

それでこそ、人間らしい美しく、正しい
言葉が使えるような人になれるのだと思
います。人の心を暖かく包むような「言葉」
で、この世の中を包みたいものです。

特別志納者の紹介

○為父母報恩供養

金 百萬円

杉本 喜盛 殿

四月八日の釈尊降誕会に使われます、花
御堂（象さんに乗ったお釈迦さまです）を
杉本氏の御浄財で購入させていただきまし
たので、四月八日には、是非、新しい花御
堂の誕生仏に甘茶をかけに、お寺におでか
け下さい。

○屋根替え寄付の御報告
年忌法要やご参拝、お
墓参りの折などに御志納
いただいている寄付額が
金 二、六四一、八三三円
となっております。

（二月末現在）

いつか必らずやってく
るであろう、屋根替えの
時に備えて、大切に積み
立てさせていただいてい
ます。

又彼岸中、本堂に返帖の
写しを置きますので、確認ご覧下さい。

一口伝導板

○我という 心の鬼が募りなば
何とて福は

内に入るべき

